

2007年3月24日

第2回「フロイトを読む会」

『集団心理学と自我分析』(初版1921年、第2版1923年)

関西大学大学院法学研究科

木村 祐治

内容

緒言

個人心理学 = 社会心理学・集団心理学

集団心理学における個人

特定の部族・民族・カースト・身分・機関 etc の一員

特定の目的のために集団へと組織化された人間の集積の構成成分

“集団”と訳された Masse は、“群衆”“大衆”を意味することが多い(p.416)

ル・ボンによる集団の心の叙述

個人 集団

“集合的な心”

集団においてのみ個々人に現れてくる観念・感情

集団において変容する個人

個人の独特さの消失

新たな性質の獲得...知的なはたらきの低下

1 “数”の力と匿名性

万能感の獲得、責任感の消滅

無意識に潜む邪悪さの表出

「意識的な人格性の消失、無意識的な人格性の優位」

2 感情・行為の伝染

集団においてのみ現われる

「思考や感情が暗示や伝染によって同一方向に向けられる」

3 暗示されやすさ

「個人はもはや個人その人ではなく、意志を欠いた自動機械と化している」

錯覚・架空のもの・非現実 > 現実

ル・ボン以外の、集合的な心の生活の評価・検討

マクドゥーガル

集団 group 群衆 crowd

“組織性”の有無

何かを共有する

感情が同じ方向を示す

互いに影響を及ぼしあう一定程度の能力を持つ

組織化された集団

- 1 集団の存続における一定の持続性
- 2 集団内の個人に集団の本性、機能、営為、要求にかかわる一定の表象
集団全体に対する感情的関係
- 3 他の集団的形成体との（ライヴァル）関係
- 4 （メンバー相互の関係にかかわる）伝統、習慣、慣例行事
- 5 個々人に割り当てられる仕事に関する組織系統
集団形成によって生じる心的欠点の除去
集団形成によって消失する個々人の特性を集団につくりだす

暗示とリビード

暗示されやすさ

集団において顕著

人間の心の生活の、それ以上何ものにも還元不可能な根源現象・基本事実

リビード

“愛”に関係する欲動のエネルギーを量的に考察

集団心理の解明

集団

ある力によって一つにまとめあげられる

他の個々人と強調しようとする欲求

“愛”が不可欠？

二つの人為的な集団 教会と軍隊

指導者を伴う集団 指導者を欠いた集団

高度な組織化

持続的
人為的

(カトリック) 教会と軍隊におけるまやかし = 錯覚
首長 所属の個々人
等しい愛情

リビード的拘束
首長 個々人
個々人 個々人

指導者(への拘束)の消失 個々人のあいだの拘束の消失 パニック
指導者への拘束 > 個々人のあいだの拘束

これに続く課題と仕事の方向性

指導者を持つ集団 指導者を欠く集団

「指導者を伴う集団こそ、より根源的でより完全な集団なのではないか」
指導者 = 理念

同一化

同一化...他の人格への感情的拘束の最も初期の現われ
対象への感情拘束の最も根源的な形態
自我への対象の取り込み
対象へのリビード的拘束の代替に
共通点が対象とのあいだに知覚されるたびに成立
= 指導者に拘束されること

メランコリー...対象の取り込みの一例

分割された自我、二つに分解した自我

“自我理想”

自己観察、道徳的良心、抑圧に際しての主要な影響

自分自身の自我に満足できない場合でも、自我理想に満足を見出す

恋着と催眠状態

同一化 恋着

同一化

対象の取り込み 対象の性質をプラス 自我の部分的変容
恋着

自分の最も重要な部分と対象とを置き換える

催眠

自我理想 催眠術師

集団形成としての催眠的關係

個々人 指導者の關係のみ成立

群棲欲動

トロッター

同質的な生物

リビードに発する傾向として、ヨリ包括的な單位に結合しようとする

人間...群族をなす動物

一人の首領によって先導される群族に属する個体的存在

集団と原始群族

集団心理...最古の人間心理

原始群族が存続

集団の指導者...畏怖される“原父”

集団理想として、自我理想に代わって自我を支配

XI 自我の一つの段階

個人...数多くの集団の一部

拘束を越えたところで自分を高める 自立性・独自性を確立

自我 自我理想

同一化

自我理想に代わる対象の投入

自我と自我理想との分離

長期にわたって耐えられるものではない

集団は永続しない

集団の崩壊が大きな危機を招く

XII 補遺

神経症患者...集団形成から除外

宗教的錯覚が、神経症の危険に対する最も強力な保護に